

## 平成22年度千葉市都市局指定管理者選定評価委員会第2回公園部会議事録

1 日時：平成22年12月21日（水） 午後1時～午後3時48分

2 場所：中央コミュニティセンター 千鳥・海鷗

3 出席者：

(1) 委員

鈴木 康夫委員（部会長）、井上 達也委員、木下 剛臨時委員

(2) 事務局

（都市総務課）

豊田課長、松山課長補佐、足立総務係長、齊藤主事

（公園緑地部）

鈴木部長

（公園管理課）

高山課長、中村課長補佐、太田管理係長、堀主任主事

4 議題：

(1) 公募施設の指定管理予定候補者の選定に係る第1次審査結果について

(2) 公募施設の指定管理予定候補者の選定について

5 議事の概要：

(1) 公募施設の指定管理予定候補者の選定に係る第1次審査結果について

申請者から提出された書類について、事前に形式的要件の審査(提出された書類に不備がないこと、各団体が募集要項に定める形式的要件に該当すること)を行い、いずれも失格とする事由はない旨を事務局より報告し確認した。

(2) 公募施設の指定管理予定候補者の選定について

申請者ごとにプレゼンテーション、質疑応答、採点を行い、採点結果を事務局において集計。採点結果について委員間で協議し、株式会社塚原緑地研究所を第1順位、社団法人千葉市観光協会を第2順位、千葉砂防植産株式会社を第3順位の指定管理予定候補者として、それぞれ選定することと決定した。

6 会議経過：

○事務局 ただいまより、平成22年度千葉市都市局指定管理者選定評価委員会第2回公園部会を開催いたします。開会に当たりまして、鈴木公園緑地部長からごあいさつ申し上げます。

○公園緑地部長 こんにちは。公園緑地部長の鈴木でございます。本日は、年末のお忙しい中、千葉市都市局指定管理者選定評価委員会第2回公園部会にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。さて、公募しておりました亥鼻公園集会所には、社団法人千葉市観光協会、株式会社塚原緑地研究所、千葉砂防植産株式会社の3社の応募がございました。委員の皆様には、この後、各事業者のプレゼンテーション、ヒアリングを経まして、各事業者の提案についてご審査をいただき、第1順位から第3順位まで決定をしていただくこととなります。今回は、プレゼンテーションもあり、長時間にわたる審査となります

が、どうぞよろしくお願ひいたします。

- 事務局 申しわけございませんが、本日、鈴木部長は所用のため、これを持ちまして退席とさせていただきます。

(鈴木公園緑地部長退席)

- 事務局 それでは、はじめにお手元の本日の資料の確認を最初にさせていただきます。まず、A4判で本日の次第、それと席次表、A3判で亥鼻公園集会所指定管理予定候補者資格審査(1次審査)結果総括表、同じくA3判で、亥鼻公園集会所指定管理予定候補者選定第2次審査審査表、本日は、応募いただきましたのは3社ということで、最初に社団法人千葉市観光協会、次に株式会社塚原緑地研究所、最後に千葉砂防植産株式会社、それと、参考資料といたしまして、A4判の選定の流れについてというペーパーが1枚ございます。また、事前に配付させていただいております、亥鼻公園集会所の管理に関する事業者からの提案書等をお持ちいただいていることと存じます。不足等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(不足資料がないことを確認)

なお、本日の会議につきましては、7月28日開催の第1回千葉市都市局指定管理者選定評価委員会において、公募により指定管理予定候補者を募集する場合における募集条件、審査基準及び指定管理予定候補者の選定に関する事項を審議する会議は非公開とする旨決定されておりますので、非公開となります。よろしくお願ひいたします。それでは、議事に入らせていただきます。部会長よろしくお願ひいたします。

- 部会長 きょうは議題が2つありますが、まず第1に、「議題1 公募施設の指定管理予定候補者の選定に係る第1次審査結果について」に入ります。これについて事務局から説明をお願ひいたします。
- 公園管理課長 公園管理課長の高山でございます。それでは、第1次審査についてご説明させていただきます。先ほど机の上にお配りしております、亥鼻公園集会所指定管理予定候補者資格審査(1次審査)結果総括表、このA3のペーパーでございますが、亥鼻公園の集会所に応募されました各指定管理予定候補者の資格審査結果についてまとめてございます。縦に1番から9番までは、応募者の組織形態・実績でございます。10番から16番、下の段になりますが、これが応募資格でございます。社団法人千葉市観光協会、株式会社塚原緑地研究所、千葉砂防植産株式会社、3社とも提出書類の確認、関係機関への照会等により問題がないことを確認しております。以上でございます。
- 部会長 事務局の今の説明に対しまして、質問等ございましたら各委員の方からご発言をお願ひします。1点私からお尋ねしますが、業務実績に関しては、それぞれ自己申告ということでございますね。
- 公園管理課長 はい、そのとおりでございます。

○部会長 そのほか、審査に当たって事前に確認すべきことがございますでしょうか。

(各委員 意見なし)

○部会長 それでは、ご発言がないようでございますので、議題1に関してはこれで終了をしまして、次に、議題2に移りたいと思います。議題2としましては、公募施設の指定管理予定候補者の選定についてであります。この選定に入るんですが、選定の流れを事務局からまず説明をお願いいたします。

○都市総務課長 都市総務課の豊田でございます。よろしくをお願いいたします。本日の選定の流れについてご説明をいたします。お手元の参考資料、「選定の流れについて」をごらんください。はじめに、①の応募団体が提案書の内容につきまして、持ち時間20分以内でプレゼンテーションを行います。各団体の説明人数は3人以内ということでお願いしております。プレゼンテーション終了の5分前と1分前にこちらのほうでベルでお知らせするような形になっております。次に、②の質疑応答を20分間で行っていただきます。この時間に委員さんから応募団体へのご質問等をお願いいたします。質疑応答終了後に、③の審査を行っていただきます。机上にお配りしております審査表の評価の欄でございますけれども、左の上に記載しております、「5 非常に優れている」から、「1 非常に劣っている」までのいずれかを数字でご記入してください。時間は10分間を予定しております。終了しましたら、その都度、団体ごとに事務局のほうで審査表を回収をさせていただきます。それで集計を行います。以上について、3団体について行っていただきまして、すべての団体の審査が終わりましたら事務局にて結果を集計し、一覧表を作成の上、④の審査結果の発表に記載のとおり、結果を集計した一覧表を皆様に配付をさせていただきます。一覧表の結果をもとに、次の⑤でございますけれども、委員の皆様で意見交換をお願いいたします。その際に、必要に応じまして評価の補正を行うことも可能でございます。補正いただきました場合には、再度集計を行った後に、⑥の審査結果を確定し、応募団体の順位を決定していただくこととなります。以上でございます。

○部会長 今の、流れの説明に対しまして、質問がございましたらお願いいたします。採点は、それぞれについて絶対評価であって、それを機械的に集計するということですね。

○都市総務課長 それぞれ絶対評価でその都度回収させていただきますので、絶対評価でお願いいたします。

○部会長 そうすると、後から聞いたのが前よりもよかった、もしくは劣ったという相対的な評価になった場合に、前のほうを訂正するのは可能ですか。

○都市総務課長 それは、終わりましたときに、補正ということで修正することは可能でございます。

○部会長 そうですか。

○都市総務課長 はい。

○部会長 つまり、自分で書いた特定の項目の特定の点を修正するということも可能と。

○都市総務課長 可能でございます。

○部会長 そのほか、流れでいかがでしょうか。

○委員 ないです。

○部会長 委員、よろしゅうございますか。

○委員 結構です。

○部会長 流れは大体理解できましたから、具体的に一番初めの応募者からプレゼンテーションを行っていただきましょう。では、初めに社団法人千葉市観光協会のプレゼンテーションを行いますので、事業者を入室させてください。

(社団法人千葉市観光協会入室)

○部会長 本日は忙しいところをご出席いただきましてどうもありがとうございました。これから千葉市観光協会の皆さんの提案内容についてプレゼンテーションを行っていただきます。時間は20分です。終わる5分前に1回、それから1分前に1回、事務局からベルでお知らせいたします。終わりが近づきましたということで、それぞれ公平に、同じ時間でプレゼンテーションをしていただくために、そういうお知らせをしますので、それで終わり方をはしよるか、どうするか、いろいろ考えて適宜一番プレゼンテーションが強いような形でやっていただきたいと思います。それが終わりましたから、委員から皆さんにいろいろ提案された中身について質問をいたしますので、それにお答えいただきたいと思います。よろしくお願ひします。それでは始めてください。

○千葉市観光協会 私どもは、千葉市観光協会です。本日は、亥鼻公園の集会所の指定管理に当たりまして、このような形をつくっていただきましてありがとうございます。今日の出席者を私のほうから説明をさせていただきます。私は千葉市の観光協会の〇〇と申します。隣が〇〇です。左が担当の〇〇でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。では、早速ですが説明に入らせていただきたいと思います。私からは、今回の提案の中で最も重点を置いているという点等につきまして説明をさせていただきます。はじめに、私どもの観光協会は、亥鼻公園の集会所を今日まで26年にわたって管理運営を行ってまいりました。これまで非常に多くの方々にご利用いただきまして、さらに楽しんでいただきたいと思います。そこで、今回の提案に対する私ども観光協会の基本方針と基本的な考え方について、主な点を説明をいたしたいと思ひます。まず1点目でございますが、私ども観光協会では、千葉市の代行者として、公平で公正、信頼のある管理運営を行っていきたく思ひます。利用者の多様なニーズに応え、質の高いサービスの提供と、効果的、効率的な運營業務を行いたく思ひます。特に指定管理者制度の趣旨を受け入れておまして、利用者サービスの向上とコストの削減を図ってまいりたいと考えております。最少のコストで最大の効果を上げるよう努力してまいりたいと考えております。2つ目でございますが、市民ニーズを把握しまして、施設の魅力とサービスの向上を図っ

てまいりたいと考えております。これまでのノウハウやネットワークを最大限に生かしながら、利用者の目線に立って安全・安心、さらに安定をもとに施設の魅力やサービス水準を高める積極的な取り組みを行っていきたくて思っております。3つ目でございますが、千葉市をはじめ、市民、地域との協働による管理運営を行いたく思っております。千葉市や市民、地域と積極的に連携し協力関係を確実にいたしまして、両者からの要望や、地域からの意見を大事にいたしまして、千葉市と協議しながら魅力的な施設づくりを推進して参りたいと考えております。近年、物の豊かさから心の豊かさへという人々の価値観の変化が指摘されております。本施設が市民に対しまして緑と静寂を求める憩いの場、また千葉市の歴史や文化に触れる場、さらには本市の観光拠点として、これからも市民に親しまれる施設として、安全・安心して利用されるような適切な管理運営を図ってまいりたいと考えております。さて、今回新たな取り組みとしまして重点を置いている主なものでございますが、私ども観光協会が育成をいたしました観光ボランティアガイドでございます。千葉シティガイドで来訪者の誘致を図るものでございます。これからの観光におきましては、ボランティアガイドの役割が増大し、ますます重要になってくると思っております。私ども観光協会としましては、昨年からの観光ボランティアさんの育成に積極的に取り組んで参りました。現在第1期のボランティアガイドさん約35名を育成をいたしまして、この3年間、再来年までで約100名の方々の観光ボランティアガイドを育成して参りたいと考えております。詳細な活動につきましては、後ほどご説明をしたいと思います。さらに、近年多くの外国人が千葉を訪れております。千葉市国際交流協会とも連携をいたしまして、外国人に対して、本市の歴史や文化に触れる場を提供して参りたいと考えております。さらに、千葉城さくら祭り、当場所では千葉城さくら祭りを毎年開催しておりますが、千葉城さくら祭りの充実強化をより図って参りたいと考えております。市民に春の風物詩として親しまれておるさくら祭りでございますが、これは私ども観光協会が中心となりまして、地元商店街などと連携しながら、さくら祭り実行委員会を設置しております。春の花や桜、いのはな亭を中心とした観光イベントを開催してございまして、多くの市民の方々に楽しんでいただいております。そこで、具体的な取り組みについてでございますが、先ほどお話しをいたしました観光ボランティアガイドでは、千葉の歴史、文化を紹介するモデルコースをつくりました。JR千葉駅から千葉市の中心市街地の亥鼻公園や千葉城、さらには美術館など、千葉シティガイドが千葉の歴史、文化、風土などを紹介していくものでございます。千葉の魅力を多くの方に知っていただくという取り組みでございます。来年の春4月からスタートを考えております。また、モノレールと連携をいたしまして、県庁前駅から作草部駅までの千葉の歴史、文化を訪ねるタウンウォーキングを実施いたしております。また、茶室を活用しまして、地元の小学校の生徒による茶道体験教室を開催いたします。さらには、千葉市国際交流協会と積極的な連携、協力をしながら、外国人に対して日本文化の1つでもある茶道や華道教室を開催いたしたいと考えております。毎年開催しております千葉城さくら祭りは、さらに磨きをかけまして魅力アップを図っていきたくて思っています。特に子供たちにも参加できるような場を設けてございまして、遊具などを設置して楽しんでいただいております。また、地元の農産物や千葉の地酒の販売、また千葉市の優良品やげ品の1つであります、亥鼻の名物であります「いのはな団子」をはじめ市内の特産物の販売を行います。各種事業を通しまして、地域活性化を図っていきたくて思っております。利用促進を図るための広報宣伝活動でございますが、文化、芸術活動団体へのダイレクトメールの定期的な案内を行っております。そこには茶店の割引券などを送付いたしまして、リピーターの確保に努めております。また、「市政だより」とか地域新聞、さらには情報雑誌を活用いたしまして、四季を通じて市民の利用を見込んでおります。周辺

の郷土博物館や文化会館、美術館、モノレール、地元商店街と一緒に宣伝活動をすることで、亥鼻公園を含めた千葉都心の回遊性を図ってまいりたいと思っております。次に、管理費の縮減でございますが、目標利用件数及び利用料金収入を21年度実績に対しまして、27年度までに50%増加を見込んでおります。さらにコストの削減につきましては、人件費を前回より約20%縮減して参りたいと考えています。終わりに、この亥鼻公園は、千葉市の発祥の地であり、市内有数の歴史公園でございます。私ども観光協会といたしましては、これからもより多くの方々に千葉の歴史、文化に関心を持っていただけるよう、観光資源の発掘や、観光情報の収集、発信、さらには観光イベントの開発に積極的に取り組んで参りたいと考えております。また、これまでのノウハウやネットワークを生かしながら、継続的に安定した管理運営を行い、利用者によりよいサービスを提供いたしまして、千葉市の発展、さらには千葉市の観光振興に寄与して参りたいと考えております。私からは以上でございます。よろしく申し上げます。

○部会長 ほかの方、追加されることがございましたらどうぞ。

○千葉市観光協会 1人でございます。結構です。

○部会長 そうですか。では、先生方、質疑、それから討論も含めて一緒に考え方をまとめていきたいと思えます。

○委員 それでは、企業も当然ですけれども、人件費が前回よりまず20%縮減というふうにお話しになったんですけれども、今回の計画を見ていると、23年度から27年度まで、一応人件費全部横並びにはなっているんですけれども、こちらについては、どうなんですかね、給与自体は基本的には改定は行われれないという前提ですか。5年間も同じ金額で計画されると。もともといた方が20%減で今回引き続き対応されるという、そういうイメージでよろしいんですか。

○千葉市観光協会 これにつきましては、従来おりました者が、引き続き今後も業務に当たる形を考えておりますけれども、一応今回の提案の45ページの費用の支出見積りの妥当性のところにも挙げさせていただいたんですけれども、実際に事業にかかわる従事時間の割合で、今回は管理運営と自主事業の部分との人件費を、按分比率を設定して負担割合を決めました。そういうことと、あと期末勤勉手当等を職員手当等で挙げているんですが、基本的に、勤勉手当等については成果を反映する形をとりたいということで考えておりますので、その成果に応じて支給する形をとるということを基本に人件費の算出をしたところでございます。

○委員 こちらで今載っている数字というのは、手当を最大限払った場合の経費を考えているという、そういうイメージですか。

○千葉市観光協会 はい。

○委員 わかりました。

○部会長 先ほど〇〇さんの説明でいろいろ観光協会の事業、目的をお話しされましたけれ

ども、具体的に指定管理を受けるのはあの集会室の管理だけですね。その仕事の中で、先ほどの抱負をどういう形で実現していられるのですか。

○千葉市観光協会 今のお話しありました点ですが、私どもかねてから、あの施設ができてから管理運営を行って来る中で、やはり亥鼻公園の集会所は、目の前にある郷土博物館と一体的な施設のとらえ方を来られる方が皆さん感じておられるということがやっている中で私ども実感しているところがございます。ですから、あそこに集会所があるということの認知度を高めないと、皆さんにあの施設を利用しようというところまでに至らない。そういうことを含めて、私どもはさくら祭りとか、先ほど申し上げたボランティアガイドを含めて、あそこに集会所というあれだけの和風の建築物があって、皆様にご利用いただける施設ですということをアピールして集会室の利用率を高めていく形をとっていきたいということで、その観光と一体的なとらえ方ができたらということで、先ほど申し上げたような提案を差し上げているようところでございます。実際に、建物の中を見ても、いのはな亭の欄間を見ていただくと、九曜紋とか月星紋の千葉氏にかかわる紋をしっかりと入れた建物でございます。やはり来ていただいた方に、私どもスタッフがこの建物の価値観を、どれだけの思いで、千葉市が市政60年のときにつくったのかということを知っていただくというようなことも取り組んでいきたいということの中で、先ほど申し上げたようなご提案をあわせて集会室の利用率向上に努めたいということで考えております。

○部会長 私の事務所が大和橋にございまして、昼休みなんか時々散歩に行くんですが、春の桜の季節以外、ほとんど人はいないんですね。たまに下の文化会館で行事があると、その流れで高校生が多少来るとい程度で、せっかくの施設が余り有効に使われていない。私も行って、いのはな団子がのぞくという程度で、裏に集会室があるのを知らなかったんですね。せっかくそれだけのものがあるのに認知度が十分でないから、利用の仕方にして少数の人が趣味的に使う場所であって、それとあの一帯の観光の中心となるということとはちょっと結びつかない感じなんです。自主事業をよっぽど展開しないと、貸し室業だけでは、ちょっと先ほどの抱負が十分に実現しないんじゃないかなと思ったんですがいかがでしょうか。

○千葉市観光協会 委員長さん言われるように、結局待っていたのではなかなか利用というのはふえてこないと思います。ですからこちらから出向いていく、攻めていく、使ってもらうためにはこちらから攻めていくという形をとらなきゃいけないと思います。

○部会長 待つのではなくてね。

○千葉市観光協会 ええ。その1つとして、さっき申し上げた観光ボランティアを、シティガイドをつくりまして、これで皆さん方にご案内できるようなコースを何点かつくったわけです。その1つとして、あそこを亥鼻の公園、または茶室、または売店、それと郷土館と一体になったコースをつくっていますので、それを来年の春からスタートしたいということ今準備してまして、それをもって、できる限り、月に1回なり、2回なり、それを活用していこうかなと。それであの場所の認知度を高めていきたくて、そういうふうに考えております。

○部会長 あと、まわりに市の科学館、きぼ一るとか、それから市の美術館、それから県の

ほうで博物館、いろいろあるのですが、それぞれ独立していて。あれを来た人が順次回つたら随分観光施設としては価値が上がると思うのですが、それについて何か自主事業を展開、先ほどのあれですか、ウォークラリーみたいなものを。

- 千葉市観光協会 それにつきまして、あの中央に美術館、博物館、科学館、このトライアングル、これをどうやって結びつけていくか。これがみんな運営管理が違うんですよ。美術館は指定管理、それと博物館、郷土館は市の直営、科学館は指定管理、したがってその辺との連携をとるために我々としても一緒に組んでやろうということで声かけをしまして、それで、さっき申し上げたボランティアガイドの中にそういうコースも全部入れたので。だから、来年から、そういうモデルコースとして取り組んでいきますから、その中で実現していくのではないかと、このように思っています。それともう1点は、さっき申し上げましたモノレールを使って駅からハイキングみたいなもので、県庁前のところから歩いていく。その中で羽衣の松だとか、いろいろ郷土館とか、中央にそれなりの歴史文化的なものがありますから、そういうところも紹介していこうということで、これは大体7.5キロぐらい歩くのですけれども、そういうところファンが結構多いんです。大体四、五十人参加されますので、そういうところで、美術館だとか、科学館だとか、博物館とか、そういうコースが入っていますから、それで紹介もできると思います。
- 千葉市観光協会 私どもで、こういうガイドブックを、この12月1日に発行して、今申し上げたようなコースを市民の皆さんにまず知っていただくという取り組みをしております。それは、私どもが観光という視点で、地域の住民の皆さんと関わる中で、亥鼻公園が歴史公園という位置づけの中で千葉の発祥の地であるということがほとんど認知されていないということが、まずもってあそこに集客をなかなかできてない一番の要因じゃないかなということで、それを皆さんに、我々が積極的にそれを紹介して、人に来ていただけるような取り組みが必要だろうということが、今、私どもの最大の取り組み課題としてやっているようなところでございます。その認知度があれば、実は、ここ一、二年の傾向ではあるんですが、団塊の世代の皆さんが、だんだん実際に仕事から離れていかれる中で、非常にこういう方たちが平日を含めて散策をされる方が非常にふえてきておまして、こういうようなこともこれからの中で、さらに次の指定管理期間の中では期待できる要因になっているんじゃないかと、そういうようなところで、今のところは私どもさらに呼びかけ、紹介を強化していきたいということで考えております。
- 委員 2点ほど伺いたいと思います。提案書の23ページ、施設の適正な管理の事業モニタリングの考え方という部分でございますけれども、ただいまお話しございました内容とも大いに関連する事柄かと思っておりますけれども、今まで、26年の長きにわたって管理されてきたという中で、ここに書いてありますような利用者アンケートですとか、あるいは利用の実態を把握するような、そういう取り組みというのは今までにも行われてきているんでしょうか。それを踏まえて、お話しいただいたような課題が出てきて、いくつかこれから力を入れていきたいと、特に力を入れていきたいといういくつかのメニューをお話しいただきましたけれども、もしそういう流れがあるのであればご紹介いただければと思います。
- 千葉市観光協会 これに関しては、私ども18年から亥鼻集会所を指定管理に移行されたことで、利用者からのアンケートについては、皆さんから記入いただいておりますところでもあります。ただ、これは集会所を利用される方にとってアンケートということで、



どうしてもそういう利用件数に応じた中のアンケートしか回収できてない。そういう中で、実は、私ども先ほどお話しありました茶店が集会所と一対としてある中で、茶店の利用をいただく方からは、直接私ども従業員があそこの場所に来たきっかけとか、いろいろなお話しをさせていただいています。そういうことの中に、実は今回の提案させていただくような内容がお客様からの要望として、声が非常に多くなってきたというようなところが、今回の提案をしている内容の中に反映しているようなところでもあります。ただ、これについては、私どもアンケートの結果として市に今まで報告という形がなく、あくまで集会所の部分に関してのいろいろなアンケートについて報告をしているようなところがありましたので、この点は今後の指定管理時期を迎える中で、それをどういう形でまた市のほうにご報告申し上げていくかということを工夫していきたいということで考えております。

○委員 集会施設の利用ということに限定せずに、広く公園の利用と、その中での集会施設の位置づけみたいなものが出てくるようなアンケートにされるといいのではないのかなと思ったわけです。もう1点、関連する話として、先ほど外国人へのPRと伺いますが、利用を促進されたいというようなお話しがございましたが、その内容は、この提案書の中で具体的に明記されている部分というのはございますでしょうか。それは、外国人の利用される方が大変最近ふえてきているという実態というのは、どういう形で日ごろの管理の中で実感されているというようなことでしょうか。

○千葉県観光協会 私どもの事務所が中央にごさいます、同じビルの中に国際交流協会が事務所を構えていまして、そこと我々とおつき合いがありまして、そこからの声かけもございまして、結構あそこで外国人の方がたくさん集まっています。そういうところで、生の声を聞かせていただいて、特に中国人なども最近相当増えてきていますので、そういう日本の文化を勉強したいという声を聞いていますので、では早速そういうことであるならば、そういう取り組みをしていこうかなということで連携をしてやろうということで今話を進めているところでございます。

○委員 了解いたしました。

○部会長 私、もう1件質問いたします。毎日電車を通っているんですけども、そうしますと、目立つのは団塊の世代の人が、恐らく退職して時間が余ったのか、散歩姿というか、リュックサックを背負ってウォーキングシューズをはいているのが非常に多いんです。それから、もう一つは、千葉駅は、杖をついた、これは病院に通う人ですよね。千葉駅はその2つのタイプの人が非常に多いのですけれども、いざ公園に行くと、そういう人は全く見かけない。だから、集客としまして、1つはそういう散歩を好む世代の人たちのコースに組み入れる。それからもう一つは、杖の人は恐らく青葉病院とか千葉大病院、それから国立の椿森のほうにある、とにかく千葉には病院が多いので、駅には非常に多いのですけれども、そういう人たちにも寄られるような。やっぱりすぐ隣に千葉大のあんな広大な施設、病院があつて、桜もいっぱいあつて、それからもう一つクスノキが星型にまとまって生えているのが、何か所かありますよね。千葉市の最大の遺産だと思うのですけれども、あれが国立であるためになかなか有機的に連携できないのでしょうかけれども、千葉大とうまく連携がとれたら、あの一帯が非常にいい観光地になるんじゃないか。前にアメリカのボストンに行ったら、ハーバード大学が観光客を招き入れて、いろいろなTシャツを売ったり、まちと一体になっている。それと同じように、千葉大ももう少し園芸学部が中心に

なっただけならば、いい一帯になるのではないかと思いますけれども。

○千葉市観光協会 今のお話しいただいた、まさに千葉医大を含めた、あの一帯の歴史的な資源とか、千葉医大の本館の建物、終戦のときに焼失をせずにいまだに残っている建物の価値観とかを皆さんに知っていただくということで、私どもは桜の時期に、京成千原線の千葉寺の駅から千葉駅まで、皆さん大体100名を超える方をご案内してガイドをして今やっているところでございます。そういうことで、まさに道路を隔てた中で、今お話しがあった七天王塚から千葉医大、そしてすぐ今ちょうど春の時期に県の水道塔が開放をするものですから、こういうものも県の水道局とタイアップして、皆さんに対してご覧いただいたりということで、あの界限に行くとき千葉医大から青葉の森を含めて、いろいろな見どころがありますということをご案内しているようなところでございまして、ただ皆さんから聞くと、まちの中にほとんどそういうことの案内表示がない。今、都内等に行きますと、比較的まちの中を自由に散策できるように案内板があったり、矢印表示があったりということで、ある程度知識がなくても、それに沿って歩くとまちの中を歩けると、この辺も、また千葉市の場合に、これから手掛けていかななくてはならないところかなというふうには考えておりますので、そういうものを私どもパンフレットでお配りして皆さんに知って歩いていただくと、こういうところは力を入れて、今取り組んでいるところでございます。

○部会長 時間はまだ大丈夫ですか。

(「あと2分でございます」の声あり)

○部会長 まだありますか。はいどうぞ。

○千葉市観光協会 ちょっと補足させていただきますけれども、今回の提案の中で、私は先ほども何度か申し上げている観光ボランティアさんですが、これは昨年から取り組みまして、35名募集するのに100名以上の方が。これは、最近の団塊の世代ばかりじゃなくて一番若い子で21歳なんです。千葉大の学生ですけれども。一番上が74歳なんですけれども。この人たちが、これだけ千葉のまちを知りたいということですからすごく熱心なんです。その人たちが全部こういうコースを自分たちで作り上げていくんです。それで今までのあるもの以外の新しいところの資源を発掘していただけるのです。だからそういうものにさらに磨きをかけていく形で、もっともっと千葉のまちの魅力が高まってくるんじゃないかなと、そういうような気がしております。ただいま申し上げたように、将来的には3年で100名近くの方のボランティアさんをつくり上げていきたいなど、それで、千葉全体のまちの紹介を処していきたいと、このように考えております。いずれにしても千葉市の観光をもっともっといい形でPRをしていきたいというふうに考えております。

○部会長 時間的には。

○事務局 20分経過いたしました。

○部会長 ほかに質問がなければ採点をするようになりますが、ございませんか。

(「大丈夫です」の声あり)

○部会長 退室をお願いします。

○千葉県観光協会 どうもありがとうございました。  
(社団法人千葉県観光協会退室)

○部会長 それでは、これから審査ということで、審査表に記入をしてください。記入が終わりましたら事務局へ提出するようになっております。

(審査表記入、提出)

○部会長 皆さん、記入が終わりました。それでは、2時5分前ですけれども、ちょっと早目に進行しまして、予定よりも10分繰り上げて2時から次を始めるということで5分ほど休憩いたしますのでよろしくをお願いします。

午後 1時55分 休憩

午後 2時00分 再開

○部会長 では、2時でございますので、会議を再開します。続きまして、株式会社塚原緑地研究所のプレゼンテーションを行います。事務局は事業者を入室させてください。

(株式会社塚原緑地研究所入室)

○部会長 どうも、お忙しいところご出席いただきましてありがとうございました。それでは、これから塚原緑地研究所さんの提案内容についてプレゼンテーションを行っていただきます。時間は20分間でございます。終了の5分前と1分前に事務局がベルによってお知らせしますのでまとめにかかってください。プレゼンテーションが終わりましたから、委員の方からいろいろ質問をしまして、お答えの中で討論的なことも行って、その時間も20分でございます。終わったら委員3人がそれぞれ単独に採点するという予定でございます。では、プレゼンテーションをよろしくをお願いします。

○塚原緑地研究所 株式会社塚原緑地研究所の〇〇と申します。よろしくをお願いします。まず、自己紹介を申し上げます。当社は、緑の専門企業でございます、緑を通して社会に貢献するというのを企業理念としております。当社の事業を申し上げますと、公園とかあるいは森づくり、野外活動、環境学習など、幅広い活動を行っております。公園とか市民の森などで、市民と協働した、協力し合った管理運営を進めております。緑の専門家、あるいはコーディネーターとして、市民の参加と協働の仕組みづくりとか、緑の人材育成、そういったことにも取り組んでおります。そういう中で、多くのボランティアの方々や専門家のご協力をいただいております。これらの活動を通しまして、市民活動やNPOとの幅広いネットワークを持っております。社員、役員合わせて30名に足らないような中小企業でございますけれども、こういう幅広い活動ができるというのが私どものネットワークの力と思っております、このネットワークは当社の財産だというふうに考えております。ちょっと事例を1つご紹介いたしますと、稲毛区園生町に園生の森公園というのがございます。こちらは、都市公園としての自然生態観察公園と市民の森、これを合体したところ

でございます、私どもは園生の森公園と呼んでいますけれども。この公園では、市民のボランティアと、それから市の職員などが参加いたしまして、みんなで管理運営をして、いろいろ自然観察会でありますとか、あるいは公園の、それこそ遊歩道の整理とか、どぶさらいとか含めてやっております、この前も皆さんをお呼びして公園祭りを開催いたしました。これは、実は私が専門家でございます、この公園の設計をさせてもらいまして、自然の生態を観察する公園なものですから、ブランコとか、すべり台とか、そういったものは一切ありません、森と水辺と多少の原っぱ、そこでいろいろな生き物が生息をして、それを観察して学ぶ、そういった施設でございます。実は、私、設計はしたんですけれども、その後、この公園が市民の方々にいっぱい利用していただきたいというふうに考えまして、千葉市に提案をいたしまして、公園ができるまでにその公園をどう活用するかという、そういうプランをつくりました。これは、市民参加でつくりました、そういう計画をつくりまして、公園が完成してからみんなが集まって市の職員と協力をして、いろいろなそういう管理運営をしているということでございまして、緑の専門家として公園をつくる側と、実際に公園を生かす、活用する側とを両方をしているというちょっと変わった人間でございます。そういったことが当社の特色かと思っております。今回のような、指定管理者の事例をご紹介しますと、県民の森でありますとか、県立キャンプ場、さらには県立都市公園など、豊富な実績を持っております。そういった管理運営の中で、特徴なのは、ボランティアの方々と一緒に活動してきたところでございます、そういう意味で里山クラブでありますとか、野鳥の森クラブとか、みどり会とか、そういったボランティアの会をつくりまして、市民参加で管理運営をしているところが当社の特徴かと思っております。

次に、本施設に移りまして、現状をちょっと見てみますと、公表されている数字で見ると、利用者数が、現管理者による管理が始まった平成18年以降年々減少し続けております。平成18年度が2,336人、19年度が2,196人、20年度が2,095人、21年度は1,992人でございます。平成21年度は2,000人というのを下回っております。この施設の影響でございますけれども、市民には余り知られていないというふうな感じを持っています。それから、私は本施設で行うイベントの情報ということ、私市民ですけれども「市政だより」等で余り見た記憶がございません。言われたから部屋を貸すというだけで、利用者が楽しめるようなそういう楽しいプログラム、そういったものが提供されていないというふうに思います。ですから、いわゆる運営というものは余りなくって、言ってみれば部屋貸し、あるいはきつく言えばただの茶店にとどまっているかというふうに印象を持っております。私は、この施設について、1つの危惧を、憂慮していることがございます。管理運営に税金が使われていますけれども、年約1,000万円、これに対して利益を得ているというか、利用者は約2,000人でございます。これが税金に見合ったものかということが多分1つの問題でございます、利用者が、平成21年度ですと1,990人に対しまして税金として支払った委託料が1,053万円、1人当たりになりますと5,291円でございます。ですから、1人の利用者には5,000円の税金をかけるという、そういった実態がございまして、これがほかの本市の施設と比較してみますと、美浜区に稲毛海浜公園がございまして、こちらのほうの花の美術館の数字を見ますと21年度の1人当たりの管理費は1,353円でございます。しかしこれは有料区域だけです。大半の部分は無料区域ですから、そちらを含めると多分3倍から5倍の入場者が考えられますから、それを計算すると1人当たり300円ぐらいかと思っておりますので、本施設は花の美術館の10倍から20倍のお金をかけているということになりますので、それだけの税金をかけてまで本施設を存続する必要があるのかというようなことがあります。少子・高齢化をひかえまして厳しい財政状況の中では、税金の使い方に対する市民の

意識というものは大変鋭いものがあります。私は、納税者の目線に配慮した管理運営に心がけることが重要であると考えております。本施設の設置目的を申し上げますと、市民の福祉の増進と生活文化の向上に寄与することとでございます。市民の憩いの場として、市街地において日々の喧騒を離れ、本市の歴史と文化に触れ合う機会を提供できる施設として効果的、効率的に運営することが期待されております。本施設の特徴を申し上げますと、1つは、亥鼻公園は千葉市の発祥の地でありまして、歴史公園でございます。公園内には、千葉市の歴史を展示した千葉市立郷土博物館がございます。2つ目は、市の中心部にありながら自然の緑を豊かに残していることとでございます。市内有数の桜の名所として市民に親しまれております。3つ目には、本施設には貸し室と茶店があります。本公園を訪れる利用者に文化や休憩などのサービスを提供しております。この3つが本施設の特徴かと思っております。

次に、私どもの提案の骨子をご紹介します。基本的に、私どもの柱は、歴史公園の特性を踏まえまして、本施設の意義を再構築するということとでございます。お金では図れない価値のある施設であることを示したいと考えております。3つのキーワードを挙げました。「桜」、それから「千葉の歴史」、それから「和の庭園文化」でございます。最初に、歴史公園の意義を申し上げます。本施設の最大の特長は、千葉市発祥の地である亥鼻公園の中にある施設ということとあります。本市のルーツにかかるとございまして、ほかの公園にはない重要なポイントであります。私たちは、歴史公園としての亥鼻公園の機能を高める管理を行って参ります。千葉市立郷土博物館と連携しまして、千葉市の歴史を学ぶ、歴史に触れることに役立って参ります。2番目は、桜でございます。亥鼻公園は、本市の桜の名所です。春に花開く桜の花は私たちの心を和ませてくれます。お花見は日本人にとって大事な祭事とございます。本公園のさくら祭りには多くの市民の方々が訪れます。さくら祭りに積極的に協力しまして市民の皆さんに喜んでいただきます。3つ目は、和の庭園文化でございます。都市公園は、環境保全やレクリエーション、景観形成、防災などの機能があります。私たちは、さらに新たに文化の機能をつけ加えたいと思っております。花の美術館がどちらかといえば洋風であるのに対しまして、本施設は和の文化を示したいと思っております。さまざまな文化活動を進めて参ります。お茶や生け花、俳句などの体験教室、茶会や句会などの催事を開催いたします。市民が日本文化に触れる機会を提供して参ります。ですから単なる部屋貸しではなく、催事主催者へ脱皮したいと考えております。日本庭園等庭園文化を学び、観賞をいたします。造園家の解説で名園めぐりなどを開催いたします。節分会や節句を祝う会、七夕会、月見の会などの季節行事を開催しまして、伝統文化を体験していただきます。本公園を訪れる方々にお茶やお菓子などを提供いたします。緑と歴史と静寂に包まれながら、和の味を楽しんでいただきます。このように、私たちは、本公園におきまして、和の庭園文化を育てて参りたいと考えております。4番目は、広報でございます。せつかくのこういう施設があるわけですから、市民の方々に知っていただきたいと思っております。積極的な広報を行います。まず、ホームページやチラシをつくりまします。さらには「市政だより」、あるいは「区政だより」に積極的に投稿いたします。さらには、新聞、テレビ、ラジオ、そういった報道機関にも情報を提供いたしまして掲載をお願いいたします。さらには、千葉市や地域の主催するイベント等にも参加しまして、積極的なプロモーションを行いたいと考えております。5番目が、参加と協働の運営でございます。当社の運営の特色は、参加と協働でございます。指定管理者だけがしゃかりきにやってもなかなかうまくいくものではございません。多くの市民の方々のご協力が不可欠であります。私たちには、多くのボランティアや専門家の協力がございます。本施設におきまして、参加と協働による管理運営を進めていきます。ボランティア

を育成しまして、イベント等のそういうスタッフとして参加していただきます。それから文化や芸術などの専門家にご協力をお願いいたします。お茶とかお花とか俳句、そういった専門家の方にご協力をお願いいたします。さらに、幅広い層のご意見を承るために運営委員会を設置いたします。専門的な視点や幅広い視点からのご指導をいただきます。以上のように、私たちは、歴史公園としての本施設の意義を再構築いたします。本市の歴史や文化を学び、豊かな庭園文化に接する機会を提供いたします。本市の文化の育成と観光の振興に貢献してまいります。市民に親しまれ愛される施設となる管理運営に取り組んで参りたいと考えております。簡単ですが、以上でございます。

○部会長 途中でベルが鳴らなかったということは非常に的確に要約されたんですね。それでは、質問は20分予定していますのでよろしく申し上げます。私からちょっと質問しますが、お宅のスタッフの方々の経歴を見ますと、社長さんを初め非常に緑の専門家をいっぱい集めていらっしゃるんですが、これだけの方々を集めて、あの程度の収益で給料を払っていかれるのですか。

○株式会社塚原緑地研究所 そこが一番厳しいところなんです。私、実は、あるロマンを持って会社をつくりまして、造園会社に10年ほど勤めていまして、それは大変日本を代表する造園会社ですけれども、非常に立派な経営をしていまして、だから非常に利益を重視する会社でございまして、お金お金ばかりやっていました。また、支店長として部下を持って大変苦労したことがあったのですが。私は、エンジニアとしてロマンがあったものから、緑の夢を追い求めるような会社をつくりたいと思って、これが発足でございます。幸い25年やっておりますので、優秀な社員が入ってくれました。またその社員以外でも、いろいろな方々がいらっしゃいますので、大変昨今厳しいのですが、とりあえず少ないのをお互いに分かち合いながら、とりあえず一生懸命やっていこうと。夢や希望は、とりあえず絶やさないようにやっていこうということで取り組んでおるところでございます。

○部会長 どこかの項目に、市から新たな提案があったらそれを受けますかというような質問があったような。先ほどいろいろ緑の豊富を述べられたのですが、たまたま我々がこの前審査した稲毛の3つの施設、あれなんかは継続のところ、千葉市みどりの協会がやっております、期間を短くして次の方法を考えるという形で継続になったんですが、ああいうのを継続でなくて公募にされたら、応募する気力はありましたか。

○株式会社塚原緑地研究所 ぜひ公募してほしかったと思います。実は、前回応募しまして負けたというのがあるものですから、今回、新たに密かに対応を考えていたんですけれども、残念ながら公募がなかったものですから非常に残念でございます。

○部会長 先生方、経理的な観点からいかがですか。先ほどの給料と、それから入場者との1人当たり5,000円ぐらいかかっているというような分析がございましたけれども。

○委員 何か斬新な、でも何かあえて聞くと年間1人5,000円だなどと思うと、やや個人的には少ないかなとも思ったのですけれども、ただほかの施設との比較という観点から見ると、確かに非常に、どうしても収益性が低い施設なので難しいところなのかなと思うのですけれども、今回そういう意味だと、自主事業で収益を上げることを中心に強調されていかれているのですけれども、具体的に増え方ということですね。利用料としては、まず人を、

貸し室のほうで通常の収入としては毎年12.5%ずつアップ、自主事業については毎年25%ということで、もう一度ちょっと具体的にこのあたりの施策についてお願いできればと思うのですが。

○株式会社塚原緑地研究所 1つは、本業であります貸し室でございます。こちらのほうが、現在2,000人ということで、これは多分私ども2倍にはしたいと思っています。ただし、非常にやっぱり8畳間と6畳間ですか、キャパに限界がありますから、これ5,000人、1万人とはなかなかいかないと思います。そちらのほうは限界。だけれどもそこを極力いろいろな、ただ部屋があるから使っているじゃなくて、こういう楽しい行事があるから来てくださいと、そういうふうな積極的なそういう活動をしたと思っています。それ多分私ども今までやっていますから、できれば、それこそ……実は余談ですけども、市民活動をやっていまして一番ネックになるのが広報なんです。せっかくないいアイデアだとやっても市民の方に知らずすべがないのです。今回指定管理者になれば、亥鼻公園管理事務所として「市政だより」を使えるという、そういうことであれば、かなりお客さんを呼ぶことができます。しかも、それは、このプロモーションはただですから、何かそういった面ではかなりの集客は見込めるとしております。だけれどもそれに関しては、なんせ安いですから、2倍にしても20万円ぐらいのもんですから、全体にはそう影響はないと。あと、私どもの考え方は、ほかの施設もそうですけれども、市からいただく税金をなるべく少なくする。そのかわり、そこでいろいろ楽しいプログラムをして、お客様に喜んでいただいて、それで、その参加費とか利用料でもらっていくというのが私の考えでございますので、自主事業のほうを充実しまして、そちらのほうで、例えばお茶会でも、お茶会に例えば1,000円参加費も、プラスおだんご500円やれば1,500円になりますよね。そういうふうに付加価値を高めていって自主事業で収益を上げていきたい。そのことによって市からいただく税金をなるべく少なくしようと、これが私の基本的な考えでございます。

○委員 ありがとうございます。

○部会長 公園内の施設といいますと、公園に人がいっぱい来て、その流れで入っていくというのが一番考えられる形なのですが、あそこではまず公園に来る人が少ないんですね。それ何か集客をふやす方法は考えられますか。

○株式会社塚原緑地研究所 そうですね。そこが一番の問題で、歴史公園というまさに千葉市としては特異な公園で、その存在意義は本当に大きいと思います。だけれども、その市民生活というか、そういったところが若干乖離があるところがありますので、ですからあそこに来てわざわざ遊びに来てくださる方というのは多分少ないかと思えますね。それが、なかなか難しいので、やはり、さっき言った歴史公園として、そこのところをもうちょっと深めていって、さっき申しあげました歴史を知る、学ぶとか、とりあえず文化活動、こういう中での文化活動、そういったようなことを積極的に、こちらのほうでプログラムをつくりまして来ていただくと、そういった考え方でいます。なかなか、まちなかの児童公園とか、そういったとことちょっと違うところがある。

○部会長 先生、公園学の見地からどうですか。

○委員 提案書でいきますと14ページ、先ほどご説明もいただいたところですけども、施

設の適正な管理運営に当たっての市民グループといいますか市民ボランティア、協働の体制というところで、いのはな亭クラブと専門家による支援というのをご提案されておりますけれども、この辺は、あてのほどと申しましょうか、あるいはもう少しこの辺具体的に詳しくお話を伺えると。

○株式会社塚原緑地研究所 実は、これは私どものおはこでございまして、このパターンをいろいろなところでやっているのですが、要は、実はいろいろな方々が人恋しいというのは、やっぱり人との触れ合いを求めているというのが、現在都市社会にありますので、だからそれが自然とか、何とかで、そういったふうにして集まる。私どもは、そういう集まる機会、人恋しさ、例えば私今やっているのは、60歳になって会社を卒業しまして行き場がないような方とか、家にいても奥さんに怒られちゃうとか、そういった方々を森に来てもらったり、公園に来てもらったりして、そうするとやっぱりこれは大変喜ばれます。きょうも何本か電話したけれども、奥さんの声が大変弾んでいるんです。塚原さんが遊んでくれるということだと思うのですけれども、そういう市民の方々にここでいろいろ有意義な活動ができる、あるいは人との触れ合いができる、あるいはちょっと作業すれば汗を流して健康ができると、そういったことを私どもは旗を立てまして、それを市民の方々に、実はその中に、例えばシルバーの方々が大変有能な才能を持っていて、昔いろいろな遊びをした人、そういういろいろな遊びや、今でやると子供たちから見ればまさに先生なんです。そういったようなことを發揮していただいて、それは公園とかは無理ですけども、こちらのほうはお茶とかお花とかといったもので参加していただくと。あとはお茶やお花、やはりこれは職員だけじゃとてもそれだけ専門的な能力が、スキルがある職員は採用できませんので、それぞれお茶、お花や造園とか、そういったものの専門の方々に来ていただいて、こちらのほうは多少の報酬を払いながら募集をいたしておりますので、この2つのパターンが私どもの進めているシステムでございまして、これが大変ほかでも有効に機能しているものですから、今回もこのシステムを亥鼻公園でつくりたいと思ってご提案した次第でございまして。

○部会長 提案書41ページですね。体験教室、催し事の開催というところの副題に、部屋貸しから主催者へ脱皮しますということで、先ほどもこれ強調されていましたがけれども、こういう方向を目指すとして、今まで、いくつかほかで指定管理者をやられているようですが、その経験が生かされますか。

○株式会社塚原緑地研究所 それに私どものノウハウがここで結集をしますので、要は、公共施設というのは、公園は特別ですけども、税金を使って公園をつくっても、あとのフォロー、ここで楽しいプログラムというのは、なかなかお役所が用意してくれないわけです。ですから、せっかくつくっても余りお客様が来てくれないことがありますから、私どもは、逆にそこで市民の方々を喜ばせる、市民の方々がいろいろなことができる、そういう活動をいろいろやっぱり持ってまして、それをすることによって、利用者がいっぱい来ているわけです。利用者がいっぱい来てくださるとやっぱり愛着がわきますから、ごみとか、そういったものも減りますし、あるいは不心得者も減るって、そういう好循環になりますので、そういったことをやっているのです。本施設でも、せっかく歴史公園に、あるいは和風のそういった立派な施設があるわけですから、そこを使っただきたいと。そのためには、積極的にこちらのほうでお茶会をしますよとか、何とか会をしますよということをご提案して、広報して、来ていただくということが、私どものまさに提案した真髄で



ございます。

○部会長 塚原緑地研究所は、緑をつくるほうが専門のようですけれども、あそこだと具体的には公園そのものは管理の対象ではないので、なかなか生かせないのでは。

○株式会社塚原緑地研究所 そうですね、公園そのものは業者さんのほうで多分管理すると思うのですが、私どもはその中の施設ですね。建物、お部屋とそれから茶店、そのほうの管理になりますから、ソフトだけになると思いますけれども。

○部会長 そのほか質問ございますか。

(質問なし)

○部会長 どうもありがとうございました。それでは、採点いたしますので退室してください。

○株式会社塚原緑地研究所 ありがとうございます。

(株式会社塚原緑地研究所退室)

○部会長 では、委員の方は審査表にご記入をお願いします。

(審査表記入、提出)

○部会長 10分程度の休憩ということでございます。2時50分再開ということで。

午後 2時40分 休憩

午後 2時50分 再開

○部会長 2時50分になりましたので会議を再開いたします。最後に、千葉砂防植産株式会社のプレゼンテーションを行います。事務局は事業者を入室させてください。

(千葉砂防植産株式会社入室)

○部会長 本日は忙しいところをご出席いただきましてありがとうございました。これから、千葉砂防植産の提案内容についてプレゼンテーションを行っていただきます。時間は20分間です。終了の5分前と1分前に事務局がベルによってお知らせしますので、まとめになるように努力してください。プレゼンテーションが終わりましてから、委員からいろいろ質問を行いまして、応答に対してまた討論的な発言があるというような次第で20分間予定されております。それが終わってご退室いただいて、委員が採点ということでございます。それでは、プレゼンテーションをお願いします。

○千葉砂防植産株式会社 はじめまして、千葉砂防植産の〇〇と申します。よろしくお願

いたします。まずは、弊社の紹介から始めさせていただきます。弊社は、昭和35年より千葉県開発庁、現企業庁の指導により、京葉臨海地域の埋め立て事業における砂防を目的とする飛砂防止工事により創業し、以後緑化工事や公園維持管理など、千葉県を中心に環境保全を提供しております。指定管理事業としましては、現在、千葉県管理における袖ヶ浦海浜公園と船橋港親水公園の2公園を、平成21年度より指定を受け、日々の業務に従事しております。長年にわたり造園建設業と公園緑地維持管理事業に携わり安全第一に快適な施設環境づくりに努めて参りました。亥鼻公園集会所は、日本庭園を所有しており、日本の造園と憩いを提供できる場でもあります。弊社の専門的な技術力と総合管理力を、経験をもとに多様化するニーズに対応し、市民の皆様により一層の安らぎと公平な行政サービスをご提供したく、亥鼻公園集会所の指定管理事業に応募させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。市民の平等な利用の確保として、利用者の視点を重視しつつ、千葉市の施策方針から施設の有効利用と効率的な活用サービスの向上を目指します。また、公の施設ということを十分に認識し、市内産業振興の向上と連携を目標とし、男女共同参加社会の推進と、安全・安心な施設運営を図り、平等・公平に施設提供を行って参りたいと考えております。本施設は、日本庭園と部屋のある集会所のため、利用者様は日本の文化と触れ合うきっかけになると思います。また、地域の人々とのつながりと連帯感をはぐくみ、相互理解や地域育成も担えるのではないのでしょうか。著しい環境の変化や経済状況において、改めて日本の文化を見直し、文化再発見のきっかけを担い、市民の心、精神的豊かな生活の実現に貢献できると考えております。次に、施設の貸し出し条件ですが、利用料金は原則条例で決められたとおりで、現在のサービスと同じ内容にてご提案させていただきました。接客サービスの考え方としては、利便性と安全性を十分に配慮し、利用者様に対し公平な運営に徹し、明るく笑顔を保ち、品位あるホスピタリティーの上のみずからが進んでコミュニケーションの図れる接客を目指します。運営にかかわる法令等の遵守の考え方としては、公共施設の指定管理者であることや、社会的責任、市民の要望等が常にあることを十分に自覚し、管理運営基準書に示された法令を守り、社会倫理に従って、公明・正大で、健全な活動を行います。リスク分担の考え方としては、帰責理由の所在が不明確になりやすいものについて、事前に十分に協議し、リスク分担を行うということで、混乱やトラブルを回避できると考えます。また、千葉市と十分な協議の上、リスク分担を定めさせていただきます。相談や苦情の対応としては、トラブルの未然の防止として、施設の利用規定を利用者の目につきやすいところへ掲示し、平等性を確保します。具体的な相談や苦情に対しては責任者と担当者が対応策を協議し、改善に向けて努めます。次に、施設運営の安定したサービスや状況の把握のための事業モニタリングを行い、利用ニーズの調査を行います。結果は協議会にて改善策の検討を行い、課題解決とサービス向上に努めます。業務体制の整備として、弊社が指定管理を受けた折には、現在の使用者の声を最優先とし、また業務の引き継ぎについては、千葉市の監督指導のもと、円滑に実施したいと考えております。施設利用の促進として、本施設に関する文化団体やレクリエーション団体の積極的な営業、誘致活動を行い、施設紹介を行います。自主事業としては、いのはな亭の運営、庭園を利用した庭木類の庭園教室、季節ごとの草花の配布、竹細工教室、ミニ門松づくりなど、千葉城さくら祭りとの共同イベント、地域文化サークルとの連携事業、茶道や華道、歌会、着付けなどなどです。このようなイベントを行い、施設の利用促進を図り、運営していきたいと考えております。どうぞご検討をよろしくお願いいたします。

- 部会長 それでは、質問させていただきます。お宅の会社の経歴書によりますと、2件指定管理業務を今までにやっているということでございますが、これどっちも公園自体の指

定管理であって、今回のような特定の建物、設備の管理ではないのですか。

○千葉砂防植産株式会社 ええ、ございません。

○部会長 そうすると、料金徴収ということは公園ではないわけですね。

○千葉砂防植産株式会社 はい、料金徴収がある公園ではありません。

○部会長 なくて、そうすると……

○千葉砂防植産株式会社 施設としましては、袖ヶ浦海浜公園のほうは風力発電施設を設けております。

○部会長 袖ヶ浦というのは、袖ヶ浦市のほうですか、習志野市の袖ヶ浦ではなくて。

○千葉砂防植産株式会社 習志野市ではなくて、所在は袖ヶ浦市でございます。

○部会長 木更津の隣の袖ヶ浦。

○千葉砂防植産株式会社 はい、そうです。

○部会長 あそこは工場地帯の先に公園があるんですか。

○千葉砂防植産株式会社 はい。袖ヶ浦市の南袖という場所でございます、企業庁開発の工場地帯の一番突端にあります。隣はすぐ木更津市になります。

○部会長 そうですね。もともと終戦直後長浦干拓地といって、農地の造成のために干拓した、あの場所ですかね。

○千葉砂防植産株式会社 いえ、あちらは、長浦よりもっと海側の埋め立てしたところに新しく工場を立地しまして、企業庁のほうで第2期工事で、造成というか埋め立てを行いまして、そのところに工場が建ってしまして、その一番の海に近いところに千葉県の港湾課のほうで港というか公園をつくりまして、そちらのほうに風力発電とかその他もろもろのものが設けてあるというところでございます。

○部会長 風車を置いて。

○千葉砂防植産株式会社 電気をそこで発電しまして、当然、公園内に使ったりとか、あとは東京電力のほうに売ったり、買ったりしているというような施設でございます。

○部会長 そうすると、お客というか、利用する人が駅から行くというような場所じゃないですね。

○千葉砂防植産株式会社 ええ、ほとんどの方がやっぱり車で来られて、駐車場もかなり広

い駐車場を設けてありまして、そちらのほうに車をとめて、その中で芝生広場とかいろいろな展望台デッキとかいろいろございまして、そちらのほうで遊んでいるという状況でございます。

○部会長 船橋の親水公園というのは三番瀬に面しているあれですか。

○千葉砂防植産株式会社 いや、三番瀬じゃなくてちょうどラポートのわきのところに海老川という川が流れておるのですけれども、その海老川のわきのところにずっと緑地帯を設けてありまして、そちらのほうの指定管理業務でございます。そちらのほうは主にトイレとか、その他駐車場があるとか、そういうものの指定管理で、もちろん樹木もございませぬけれども、そういう管理を行っております。

○部会長 今回の亥鼻公園の中の集会所というのは、今の2つを比べるとちょっと特色が違うのですけれども。

○千葉砂防植産株式会社 そうですね。建物ですけれども、私どもも、造園というものをやっておりますので、当然茶室とか茶庭とか、造園というものは切っても切れない縁がございまして、その辺がございましたもので、今回この指定管理のほうを申し込んでみたというのが私どもの最初の考え方でございました。

○部会長 そのほか、提案内容について質問ございますか。

○委員 まず、経費と収支の見積もりの部分ですけれども、様式31号と32号のほうを見ると、具体的には33号、34号と、文書で記載していただいた中で、結果として総括表のほうで確認できると思いますけれども、こちらを見ると、一たんはまず平成23年度で数字を出して、それを横並びというような形で作成されているということ。

○千葉砂防植産株式会社 はい、そうです。

○委員 特段、何か最終的に5年後のイメージというか、例えば利用者をこのぐらいに増やして、このぐらいの規模で利用料金収入を増やそうとか、自主事業をどうやっていこうかというような形の5年後というイメージは余り出されてないということですか。

○千葉砂防植産株式会社 最初のイメージはつくって見たんですけれども、亥鼻公園、駐車場がないですし、千葉城のほうと県立のほうの文化会館とリンクしたときというのも必要になるかと考えまして、過去の、今現行の財団さんがやられている報告書をぱっと見させていただきまして、その上でこういう書き方をさせていただきました。

うちは、集客に向けては自主事業等を応援させていただきまして、それに向けての活動は行う予定でございます。

○部会長 どうぞ。

○委員 提案書は非常に網羅的に書いていただいておりますが、内容的にはカバーされている話なのかもしれませんが、ちょっとお聞きしたいのは、現状のこの施設の利用です

とか、管理における一番課題と感じておられている点、それに対して、今回のご提案の中で、どの辺を重視されたいのか、強調されたいのかという点を補足していただけるとわかりやすいのですけれども。

○千葉砂防植産株式会社 我々、造園に携わってきている歴史もございますので、先ほどのご説明しましたが、切っても切れない環境でもあります。こういう見方というか、そういう捉え方もできると思います。茶屋もありますし、集会所で日本の文化の1つをご利用されたり、もちろん庭園のほうも観賞されたりと、そのような心のほうの精神的な豊かさをこの施設を通じてご提供したいと、こういうふうに考えております。

○委員 それで、現状ですと今不十分であって、それをもっと……

○千葉砂防植産株式会社 今の現状を……

○委員 現状の課題分析と言いますか、それがあればお聞きしたかったんですけども。

○千葉砂防植産株式会社 現状の分析……

○委員 分析と言いますか、今の指定管理者さんの管理で問題なければ新たに提案する必要はないわけですし。今回、ここにご応募されるに当たって、特に問題意識と言いますか、課題と感じておられるようなことがあればお聞きしたいなというご質問をしております。

○千葉砂防植産株式会社 説明会にも参加させていただいたのですが、特に庭園のほうは、指定管理者さんの管理されているわけではないようなので、これは中央稲毛公園事務所から発注されているそうなんですけど、我々はそういった技術もございますので、より一層庭園に関しては厚みを持たせること、観賞的に清潔感ある庭園を提供できるかと思っております。

○委員 例えば、利用促進、利用者をもっとふやすということに関しての具体的なご提案ですとか、その辺をもう少し詳しくご説明いただければと思います。

○千葉砂防植産株式会社 ホームページを使うこと、これは一般的かもしれませんが、やっぱり企業さんへこちらから誘致活動を、ちょっとした会議ですとか、そういったお茶を知ってもらったりとか、それでまた精神的な心持ちを提供して、変えるというか、変化とか気づきだとか、そういった面をご利用、そういった面をつくらと言いますか、そういった機会を提供するために、企業さんですとか、諸団体さんのほうを訪問させていただいて、紹介していきたいと考えております。

○部会長 提案書は大変よくできていて、つくるの大変だったと思うんですが、プレゼンテーションを聞くと、いささかこれと見合うほどの具体性がないような、ちょっと感想的で申しわけないけれども、思ったのですが。ああいう集客施設の前に公園を中心にした指定管理業務を経験されると、ちょっとノウハウが蓄積するんじゃないかなと、今のお宅の業態と一致して。ただ、市のほうでその部分は全部非公募だからね。お宅の熱意を反映する場が十分でないのが問題だと思うのですが。ということを経事録に残してもらって、後で市の人に考えてもらおうと思って私は発言しておりますが。公募をもっと増やせというこ

とですね。先生方、まだございますか。

○委員 1点だけ。

○部会長 はい。

○委員 提案書の22ページの、事業モニタリングの部分でございますけれども、この最後に利用者参加型連絡会議という項目がございますして、説明がございますけれども、もうちょっと具体的に説明していただくことと、あと現在、あるいはこれまでに、何か公園の指定管理の中でこういったケースといいますか、実績がもしございましたらご紹介いただければと思います。

○千葉砂防植産株式会社 利用団体、積極的な方や団体と座談会を設ける。これは、利用団体様は多種にわたると思いますので、いろいろな考え方や施設の活用方法などは様々な会を持って出てくると思います。そのような意見を聞きながら、運営に沿う会議をしていきたいと。それがよいのか悪いのかというのはもう1つ上の段階なんでしょうけれども、意見をいただきたいというのが1つです。今やっているところで実績があるかということでしょうけれども、公園のファンというのがどこにでもいらっしゃいましてご意見をくださいます。苦情にしろ、要望にしろ、積極的な方にはこういった連絡会議を設けさせていただいて参加していただきまして、具体的にはボランティア的にもおいでいただけますし、本当に貴重なご意見、これから直していかなくちゃいけないですとか、こういったふうになれば市民が利用者のためになるのではないかという生の意見がいただけるので、特に反映しやすく、運営にも直結できるような意見が多いです。ひとつ改善としても、発注者さん側にも届けられますし、市民の意見、我々の意見じゃなくて使う市民の意見としていただけますので、声が届きやすいです。

○部会長 質疑応答を20分予定しているんですけども、もしこれでなければ……。それでは、ご苦労さまでした。採点させていただきますので退室願います。

○千葉砂防植産株式会社 ありがとうございます。

(千葉砂防植産株式会社退室)

○部会長 それでは、審査に入ります。審査表への記入をお願いします。記入が終わりましたら審査表を事務局へ提出してください。

審査に10分間ぐらいで、それから休憩とします

(審査表記入、提出)

午後 3時22分 休憩

午後 3時38分 再開

○部会長 採点がそろいましたので、会議を再開します。事務局から採点の結果を報告して

ください。

○都市総務課長 集計結果を報告させていただきます。今、お手元にお配りさせていただきました第2次審査審査結果集計表をご覧ください。第1位は、株式会社塚原緑地研究所で、得点は右のほうの下になります599.5点です。第2位は、社団法人千葉市観光協会で、得点は546.5点です。第3位は、千葉砂防植産株式会社で、得点は521.9点です。なお、各委員さんの順位もこれとすべて一緒でございます。以上でございます。

○部会長 意見交換というのがありまして、どういうことかと言いますと、採点内容について確認しておきたい点の質疑応答や、また必要に応じて採点の補正を行うことも可能です。何かご発言ありますでしょうかということですが、感想を含めて皆さん長い間臨まれたのでお話しを伺いたいと思っております。

○委員 私以外の先生方と評価が同じでほっとしております。1番の塚原緑地研究所さんにつきましても、やはりお三方の中では、一番現状の課題ですとか、問題意識のようなものに対する明解なプレゼンテーションがあったことと、それを踏まえて対策というものが考えられていたというところ。それから、やはり大変豊富な実績を積んでおられる中で、市民協働と言いますか、そういうご経験も豊富なようで、今回のこの亥鼻公園の集会所での指定管理業務においても、そのノウハウが十分に生かされるのではないかとということが期待されました。千葉市観光協会さんにつきましても、長年のご経験を踏まえて、問題のほうは明確に把握されているようでしたけれども、ちょっと提案という部分で塚原緑地研究所のほうの方が優れていたかなと、訴えかけてくるものがあつたかなというふうに考えております。千葉砂防植産さんにつきましても、私も質問をさせていただきましたが、ちょっと通り一遍という失礼かもしれませんが、この提案書の様式にのっとって、いろいろ網羅的にご提案、中身は充実していたとは思いますが、やはり、現状の問題を踏まえて、それに対する一番力を入れたい対策ですとか、メニューのところ、そういった部分での説明がちょっと弱かったかなということと、委員長も言われていましたように、この砂防植産さんの一番得意とする部分というのが、今回の業務ではちょっと発揮するのが難しいのかなといったところを踏まえて、こういった評価とさせていただきました。以上でございます。

○部会長 先生はどんな感想ですか。

○委員 そうですね。まず、全員同じ順位だったというところはひとつおもしろい結果になったかなというところなんですけれども、やはり一番印象に残ったところとしては、各三社の中のプレゼンの中で強調されていたところだったかなと思ひまして、その中で、やっぱり一番今後に対していろいろと思ひがあり、かつ、この膨大な提案書の中で、きっちり短いプレゼンの中でどうしていきたいかというところをうまく表現してもらえたかなというところが一番点数としては差となってきたのかなというふうに感じます。ちょっと具体的にどこがというところよりは、全体の印象として、そういう形で、意識してか、しなかったか結果的にはそういう形で採点がうまく落ち着いたのかなというところはあるので、私のほうとしてはそういったところが印象でした。あとちょっと収入や支出については、余りちょっと見積もり内容を見ていても、さすがに5年後のところまで明確にうまく見積もりができていられる会社さんは余りなかったようにも思えるんですけれども、ただその

中でも、やっぱり塚原緑地研究所さんのほうは、目的として、市民の税負担を減らすというところをかなり明確に出していて、結果としてその部分が最後の採点結果の部分にも大きく反映されていたかと思えますので、この提案内容で非常にいい結果になったのではないかなというふうに思います。以上です。

○部会長 それでは、私の個人的な感想を申し上げます。私も、募集要項を読んだときに、初めは応募者がなくて観光協会だけと思いましたが、あと2つ非常にいいのが出てきておりまして、3つも読み比べ大変にいい結果だと思って。書いてあることで一応採点しておいたのですが、きょう塚原さんの迫力ある提案を聞いたら、もう少し上げなきゃいかんのかな、どこを上げようかと一生懸命考えて、最後のほうで少し5をつけたんですが、それまでは全部3、4、5と、3段階評価でそれぞれやってきて、私の中では、余り採点の上では差がなかったのですが、今見ましたら皆さんと全く同じような順位になって。いろいろな経験の実績のある指定管理者がふえると、これからもこの制度がうまくいくんじゃないかと。砂防植産も熱意を持って参加されていていい提案書をつくられたのですが、なんせ実績が別の分野であることで、こういう結果になっちゃったのですが、また次の機会にほかの場所に応募すれば十分に通用するんじゃないかなと思いました。そうしますと、今の順位はこの表のとおりでございます。それで、当部会としては、亥鼻公園集会所の指定管理予定候補者について、ただいまの報告の順位のとおり、第1順位が株式会社塚原緑地研究所、第2順位が社団法人千葉市観光協会、第3順位が千葉砂防植産株式会社のとおりを選定したいと思います。委員の皆様よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○部会長 では、異議がないということでご了承いただきましたので、その旨決定いたしました。それでは、最後に今後のスケジュールについて、事務局より説明をお願いします。

○公園管理課長 どうも長い間の審査ありがとうございました。今後の予定についてご説明させていただきます。本日の第1順位として選定されました株式会社塚原緑地研究所と提案内容について協議を開始しまして、業務内容について、より詳細に精査し、仮協定を締結いたします。主な協議内容は、管理業務、責任体制、管理委託料、利用料金、リスク分担、新年度までの準備内容でございます。来年2月に開催される定例市議会において指定管理者の指定の議案を提出いたします。指定管理者の指定議案が可決されたときは、速やかに指定管理者を指定・告知いたしまして、指定管理者と協定書の締結を行います。また、基本協定書の締結にあわせ、1年目の年度協定書についても協議を行い締結いたします。今後の予定としましては以上のとおりでございます。

○部会長 議題2は、以上とします。本日の議事はすべて終了しました。これをもちまして、千葉市都市局指定管理者選定評価委員会第2回公園部会を閉会します。それでは、事務局にお返しします。

○事務局 本日お配りしております資料、それと事前に配付させていただいております事業所からの提案書等、それは事務局のほうで回収をさせていただきますので、机の上に置いたまままでお願いしたいと思います。本日はありがとうございました。